



わたしにとって日本とは

セマル・アティシ

らつておけばサイクリングをもっと楽しめたのにと
思った。さらに日本は鉄道
網が発達しており都市生活
において公共交通がいかに
重要かを示している。乗り
方は外国人から見ると複雑
なようであるが基本事項
切符の買い方、路線の選
び方など一々覚えれば大変
利なものである。

食べ物については最初、
日本食に自分を慣らすのが
難しかった。しかしまもなく
日本食はとても健康的で
あることを理解した。自分
でも作ろうと思えば新鮮な

材料がいつでも手に入る。なかには口に合わない
食べ物もある。生魚がそれである。いまも食べる
のは遠慮したい。しかし、カレーライスのように
トルコの食文化と似た味の食べ物もある。さらに、
小さなケーキやお菓子、とくにフルーツがのっ
かったものが好きだ。ところでフルーツは大好物
でトルコでは比較的安いこともありキロ単位で
買い求める。しかし日本では果物は非常に高いの
で普段より食べることができない。

驚いてしまうのは日本にはファースト・フード
の店の数が非常に多いことだ。以前は、日本人の
食へのこだわりを考えると外国からきたファース
ト・フード店は、はやらないだろう思っていた。
しかし日本人の生活様式がここ数年で変化し、せ
かせかしたものになったという現実を踏まえれば
そうした店が日本人のニーズを満たすようになって

たのかもしれない。レストランで興味深いのは食
後チップを払わなくてもよいことだ。客にとって
はとてもよいことだ。客が行列を作って待ってい
る店もあるが、私には奇妙にうつる。満員だった
ら他の店に行くのが普通だからである。

ところで自動販売機の数の多さは極めて印象的
である。他の国でも置いてあるのを見かけたこと
があるがこんなに多くはない。これらの機械が皆
的確に素早く作動するのにもびっくりする。興味
深いことに五年前と比べ価格は同じままだ。実を
言うところの私も自販機の常客である。

自由な時間があると私は食料を買いに出かけ
る。お気に入りの場所は、職場からもアパートか
らも近いヨーカドーである。幕張の海岸もよく行
く。週末を過ごすには素晴らしい場所である。日
本について考えるとき最初に頭に浮かぶのはお花
見の季節である。私が春に満開の桜を初めて眺め
たときその花の美しさに魅了された。どこもかし
こも白い桜の花が満開に咲いている。風が吹き
すると花びらが雨のように舞う光景になる。呆然
とさせる眺めなのである。お花見を逃した人はた
いへん寂しい思いをされるのではないかと思う。

日本の生活様式についていえば、住まいも公共
の場所もあっさりしていて心地がよい感じがす
る。一般的に言って、誇大的な表現がない。私は
最小限を美德とする人間なので私自身の生活スタ
イルに合っている。職場での生活も人々との意
思疎通のしかたもとてもユニークである。日本人
は寡黙にして几帳面に仕事をやる。コミュニ
ケーションにはすぐく気を遣っている。いまの職
場でもそれは言える。結局、研究者が必要として
いるのは豊富な研究資料が備わった静かな場所
である。

五年ほど前に研究のため筑波に一年間滞在した
ことがある。五年たつて再度日本を訪問してみ
て私はいかに多くのものを懐かしくおもったこと
だろう。私にとって日本で暮らすことは調和を保ち、
秩序だつて、気取らずに生きていくことを意味し
ていた。

最初に訪れたとき、まず気づかされたのは一ほ
かの外国人もおおかた同じだろうが交通が円滑
に流れていることであつた。昔のままの街は道路
が狭くラッシュ時には混雑することもあるが、ド
ライバーは互いに、また通行人に気をつけてい
るため大きな問題も発生しない。私が生まれた町
でもそのような生活様式が存在したら私は賞賛す
るだろう。自動車のほか、多くの人々が自転車
を利用して、環境にもよいことだ。私自身自転
車は日本で乗り方を覚えたのだが、もっと早くな

Cemal Atici / 海外客員研究員

トルコ出身

Associate Professor, Department of Agricultural Economics Adnan Menderes University

研究テーマ: Trade Liberalization and Environmental Interaction in Japan and ASEAN

滞在期間: 2010年5月から11月まで